

(別添)

専門高度化探究科目（学校課題解決マネジメント科目）

授業科目名	学校安全と防災教育		講義・演習		
科目区分	選択必修	授業形態	複数（TT）	単位数	2単位
担当教員名	小田隆史、梨本雄太郎、水谷好成、本図愛実、信太昭伸、佐々木孝徳				
授業の目的	各校の学校安全計画および学校安全マニュアルを見直すとともに、学校における防災教育・安全管理の知識と態度を養う安全教育・防災教育について検討する。				
授業の概要	地域の災害履歴の調査や避難訓練の参与観察などを通じて、学校と地域の防災のあり方について省察し、地域防災や安全管理の先進事例や専門機関の取組から、学校安全マニュアル等を見直し、PDCAに基づく学校と地域が協働する学校防災について考察するとともに、教員の防災の指導力と専門性向上に向けた知識・技能等について検討する。				
学習の到達目標	学校防災の制度的枠組を理解した上で、災害を多面的に捉え、学校とその周辺環境を理解する方法の基礎を身につけて安全管理に応用する方法と子どもに防災を指導する方法の両面を理解することができる。				
授業の内容	第1回：ガイダンス（小田・信太・梨本・水谷・本図） 第2回：ハザードと災害リスク理解の基礎（小田） 第3回：地球規模課題としての災害～仙台防災枠組（小田） 第4回：地域災害史調査・防災訓練の参与観察（小田） 第5回：災害給付制度の理解から考える交通安全・生活安全（本図） 第6回：震災伝承、学校再開、避難所運営（小田・梨本・本図） 第7回：クライシスマネジメント（小田・梨本・本図） 第8回：災害対応シミュレーション（気象庁ワークショップ）（小田・信太） 第9回：防災教育とカリキュラム・マネジメント（信太・佐々木） 第10回：防災教育と副読本の省察（信太・佐々木） 第11回：関係機関との連携の事例（国土交通省）：災害安全（防災）（小田） 第12回：関係機関との連携の事例（消防）：消防・救急（水谷） 第13回：避難所運営の基礎と実演（水谷） 第14回：特別な配慮を要する児童生徒の安全教育・管理（水谷） 第15回：PDCAに基づく地域協働防災計画（小田・梨本・本図・佐々木）				
教科書・参考書等	・小田隆史編著『教師のための防災学習帳』、2021、朝倉書店。 ・渡邊正樹・佐藤健編著『レジリエントな学校づくり：教育中断のリスクとBCPに基づく教育継続』、2019、大修館書店。 ・諏訪清二著、『防災教育の不思議な力—子ども・学校・地域を変える』、2015、岩波書店。 ・仙台高裁『平成28(ネ)381国家賠償請求控訴審』大川小津波訴訟判決文、2018（PDF版を配付する） ・大川小学校事故検証委員会『大川小学校事故検証報告書』2014（PDF版を配付する）				
評価の観点・方法	【観点】学校防災の制度的枠組を理解しているか。学校の立地及び周辺環境からハザードを捉え、それを組織の安全管理に反映するための情報収集の方法、専門家との連携の事例や課題を理解しているか。学校安全に関する計画、実施、評価について経験したことを自らの知見として整理し、防災管理及び防災学習指導等（教材開発含む）の計画を立てる基礎とすることができるか。 【方法】授業時間内の課題達成状況、レポートを用いて、段階別達成度を評価し、自己評価・相互評価を踏まえて総合的に評価する。				

成績評価	
標準的な到達水準	・基準（評価B） 学校における安全管理と防災教育の両面の現状を理解し、地域や学校の諸課題の解決に向けて、組織としてどのように計画し、自らマニュアルの点検・評価や教材開発を実施し、評価するかについて十分に理解し、得られた知見を整理した形で示すことができる。
S	学校における安全管理と防災教育の両面の現状を理解し、地域や学校の諸課題の解決に向けて、組織としてどのように計画し、自らマニュアルの点検・評価や教材開発を実施し、評価するかについて得られた知見を、整理した形で示すとともに、自らの学習指導等の計画を立て教材開発と実践を行う見通しを明確に示すことができる。
A	学校における安全管理と防災教育の両面の現状を理解し、地域や学校の諸課題の解決に向けて、組織としてどのように計画し、自らマニュアルの点検・評価や教材開発を実施し、評価するかについて得られた知見を、整理した形で示すとともに、自らの学習指導等の計画を立て教材開発と実践を行う見通しを示すことができる。
B	学校における安全管理と防災教育の両面の現状を理解し、地域や学校の諸課題の解決に向けて、組織としてどのように計画し、自らマニュアルの点検・評価や教材開発を実施し、評価するかについて十分に理解し、得られた知見を整理した形で示すことができる。
C	学校における安全管理と防災教育の両面の現状を理解し、地域や学校の諸課題の解決に向けて、組織としてどのように計画し、自らマニュアルの点検・評価や教材開発を実施し、評価するかについて、得られた知見を示すことができる。
D	学校における安全管理と防災教育の両面の現状を理解し、地域や学校の諸課題の解決に向けて、組織としてどのように計画し、自らマニュアルの点検・評価や教材開発を実施し、評価するかについて、得られた知見を示すことができていない。
準備学修の内容と必要な学修時間（目安）	【予習】 毎回の授業前に、前回授業時まで配布する資料をもとに、授業のテーマについて調べておく（45分） 【復習】 毎回の授業後には、授業の際に用いた資料や教材により得られた知識や気づきを確認する。学んだことについてさらに調べ学習を行い、自分の考えを深める（45分）